

AKI INOMATA

『犬の毛を私がまとい、私の髪を犬がまとう』（2014年）

“I Wear the Dog's Hair, and the Dog Wears My Hair”

作者のことば

猫や犬を愛する者は、例外なく馬鹿者だ。

—ジル・ドゥルーズ+フェリックス・ガタリ『千のプラトー』

私が自分の犬に接触するとき、私は、誰と、そして何と接触するのだろうか。「～と一緒にいる」ということは、「現実世界的になる」実践と、どのような関係にあるのだろうか。種と種が出会うとき、いかに歴史を継承するかという問いは、差し迫った問いであり、いかに一緒にいるかという問いは、利害の絡んだ問いだ。

—ダナ・ハラウェイ『犬と人が出会うとき 異種協働のポリティクス』

犬（名前をチェロという）の毛と、私（INOMATA）の髪を数年にわたって集め、その毛／髪で、互いの衣服／毛皮をつくり、交換するように身にまとう。ペットと人との関係についてあらためて問い、具象化する作品である。

現代においてペットと人とのつながりは、近代の世界観と自然の理のズレを顕現するように歪んだ様相をあらわにしている。ドッグショーでは見た目の美しさによって犬を評価する犬種標準が定められ、近親交配によって造りあげられた純血種の犬達は深刻な遺伝病に冒されている。都市の環境に不似合いで奇異な動物を飼育することや、手に余って放棄することが横行し、大量の駆除や殺処分が行なわれている。かつてとは異なる種が生息繁殖し（たとえばアライグマやミドリガメ）、都市に新たな生態系を積みだしつつある。これらはみな、侮るべからざる自然や生物の生態を、人間が近代の概念や美意識によって都合よくねじ曲げてきた負の所産であると言えるだろう。現代の人間は、新たな自然への認識をもって、ペットと人との関係を捉えなおさなければならない。

<https://vimeo.com/102524253>



AKI INOMATA <http://www.aki-inomata.com/>

1983年生まれ。アーティスト。東京藝術大学大学院 先端芸術表現科 修了。主な展覧会に "Spectrum File 07 AKI INOMATA" (SPIRAL, 2015)、「エマーゲンシース」025 AKI INOMATA / Inter-Nature Communication) (NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京)、「岐阜 おおがきビエンナーレ 2013 LIFE to LIFE -生活から生命へ 生命から生活へ-」(IAMAS, 2013)、「Aki Inomata : Why Not Hand Over a 'Shelter' to Hermit Crabs?» (バーモント大学フレミング美術館、2011)、「No Man's Land」(旧在日フランス大使館、2009)。

<http://www.aki-inomata.com/>